

大型放射光施設「SPring-8」(兵庫県佐用町)で発生させたX線をを用いて、物質を構成する原子の種類や分布を識別できる顕微鏡を大阪大や理化学研究所などのグループが開発し、28日付米科学誌電子版に発表された。新薬や新素材の研究開発などへの応用が期待できるといふ。

阪大工学研究科の高橋幸生准教授らは、X線を特殊な鏡で集めて光を強めることで、解像度を10ナ

原子見分ける顕微鏡

・材(ナノは10億分の1)まで向上。さらに、X線が原子内の電子に共鳴してエネルギーが分散する特徴を利用し、エネルギーの強弱によって原子の種類を識別できる

阪大・理研など開発

ようにした。

金と銀が混ざった微粒子にエネルギーの強さを変えながらX線を当て、金の原子が含まれる範囲を精密に特定することに成功した。

平成23年9月29日(木)朝・夕2面
新聞(朝日 毎日 読売 産経)
日経 日刊工業